



音の日

12月6日は「音の日」です。1877年のこの日、トーマス・エジソンが蓄音機「フォノグラフ」を発明し、音を録音・再生することに成功しました。音と音楽文化の重要性を広く認識してもらうとともに、オーディオ及び音楽文化・産業の一層の発展に寄与することを目的として、1994年に日本オーディオ協会によって、12月6日が「音の日」に制定されました。

今回は、平成29年7月に公表された平成28年社会生活基本調査から、音楽に関する統計を見ましょう。

まず、音楽に関する7項目の行動者率を都道府県別に見ると、京都府は「カラオケ」を除く6項目が全国値よりも高く、上位10位以内に入っています。さらに、うち5項目は上位5位以内となっており、種類や鑑賞・演奏の別を問わず、多くの人が音楽に親しんでいることが分かります。(表)

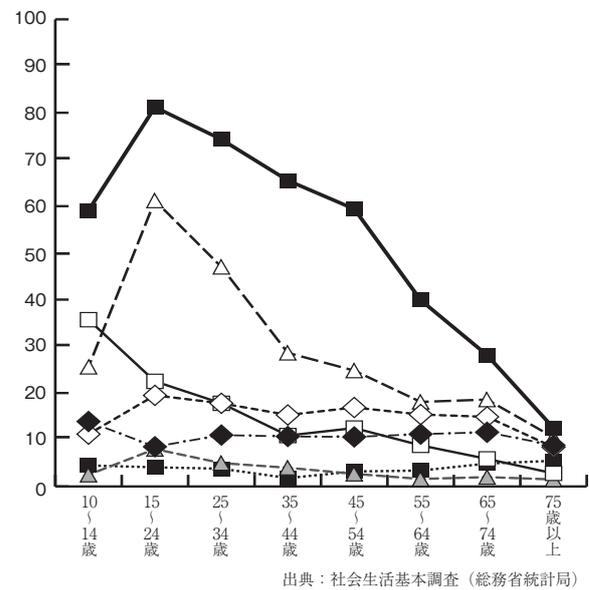
次に、京都府の行動者率を年齢階級別に見ると、若年層ほど行動者率が高い傾向にあります。特に「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」の行動者率が高く、次いで、「カラオケ」が高くなっており、いずれも15～24歳がピークとなっています。また、「楽器の演奏」は10～14歳が最も高くなっています。(図1)

若年層の行動者率について、さらに詳しく見てみると、「楽器の演奏」は小学生が最も高く、「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」と「カラオケ」は小中高生と上がるに従い、高くなっています。(図2)

また、親がある行動をした場合、子どももその行動をするというように、親と子どもの「趣味・娯楽」の行動者率には相関が見られます。ぜひ、家族で音楽に触れてみてはいかがでしょうか。

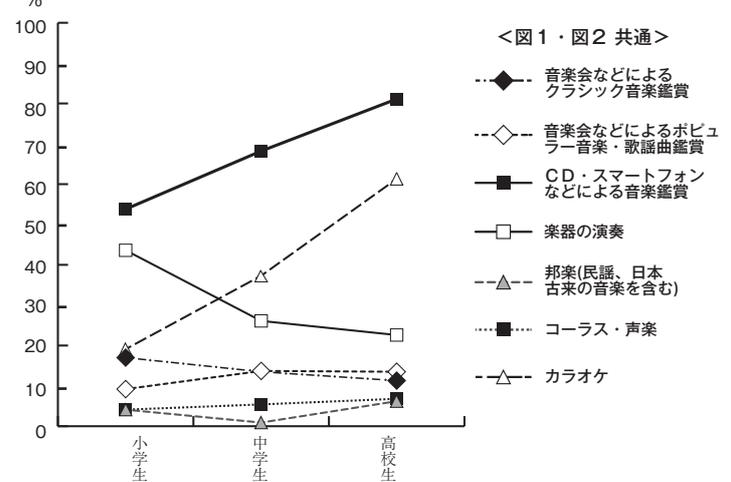
※行動者率 = 10歳以上人口に占める過去1年間に該当する種類の活動を行った人の割合(%)

図1 「趣味・娯楽」(音楽関係)の年齢階級別行動者率(平成28年) —京都府—



出典：社会生活基本調査(総務省統計局)

図2 「趣味・娯楽」(音楽関係)の小中高生別行動者率(平成28年) —京都府—



出典：社会生活基本調査(総務省統計局)

表 「趣味・娯楽」(音楽関係)の都道府県別行動者率 上位5位(平成28年)

順位	音楽会などによるクラシック音楽鑑賞		音楽会などによるポピュラー音楽・歌謡曲鑑賞		CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞		楽器の演奏		邦楽(民謡、日本古来の音楽を含む)		コーラス・声楽		カラオケ	
	全 国	10.1	全 国	13.7	全 国	49.0	全 国	10.9	全 国	2.9	全 国	2.8	全 国	30.7
1位	東京都	14.6	東京都	18.0	東京都	59.0	東京都	14.3	沖縄県	4.8	神奈川県	4.4	沖縄県	39.5
2位	神奈川県	13.8	神奈川県	16.7	神奈川県	56.4	神奈川県	13.8	宮城県	4.0	東京都	3.9	神奈川県	35.3
3位	長野県	12.6	埼玉県	15.6	千葉県	53.3	滋賀県	12.7	愛知県	3.5	京都府 兵庫県	3.8	東京都	35.2
4位	埼玉県	11.3	京都府	15.2	埼玉県	53.0	京都府	12.4	京都府 神奈川県	3.4			千葉県	33.4
5位	兵庫県	11.1	兵庫県	15.0	京都府	51.1	愛知県 兵庫県	12.0			長野県	3.4	大阪府	32.7
その他	京都府7位	10.6											京都府17位	28.7

出典：社会生活基本調査(総務省統計局)